

第2章 将来への提言

本年度調査により、アウカパタ西地区、タカコマ南地区の2地区およびペレチュコ地区～イロ・イロ地区～ケジュワクタ東地区の1地域が有望と考えられ、以下の調査が必要である。

アウカパタ西地区

本地区の西部は、鉍徴や地化学異常が点在する区域であり、マント型鉍床や脈状鉍床が期待される。したがって、岩石地化学探査を併用した詳細な地質調査の実施が必要である。また、断裂系と金鉍化作用の関係を確認することが重要である。

アウカパタ東部は、石墨化度がマント型鉍床に好都合な値を示しているが、沢砂の異常は沢の上流部に認められるに過ぎない。植生や地形が調査を非常に困難としているが、標高4,000m以上の植生の少ない地点からアプローチし、具体的な鉍徴を確認する必要がある。

タカコマ南地区

本地区の地化学高異常は上流（南部）のサン・ビセンテ鉍床等からの削剥によるものと思われ、南部で詳細な岩石地化学探査を併用した地質調査の実施が必要である。

中央部では、石英脈が多数存在することから、地質精査と化学分析により断裂系と金鉍化作用の関係を確認することが重要である。

ケジュワクタ東地区～イロ・イロ地区～ペレチュコ地区

ケジュワクタ地区のヤナ・オルコ鉍床は北西部のペレチュコの金鉍床と同一の鉍化圏と考えられ、探鉍余地が拡大している。広域的な地質調査と岩石地化学探査を併用して、マント型鉍床賦存の可能性を検討することが望ましい。

本地域はアクセスが制限され且つ地形が急峻であるために調査が制限されるため、詳細な沢砂地化探も場所によっては必要と考える。